Laryngomicrosurgery に於ける鉗子の工夫

*斎 藤 成 司 *北 原 哲

*秋 田 谷 直 *尾 形 キヨウ子

Newly designed Forceps for Laryngomicrosurgery

Shigeji Saito,

Satoshi Kitahara,

Tadashi Akitaya,

Kyoko Ogata,

Department of Otolaryngology, School of Medicine, Keio University

In laryngomicrosurgery, the authors frequently remove the lesion on the upper surface of the vocal cords. Upward and Straight Forceps were currently used, but they were not enough to proceed a successful operation on such regions. For the purpose of performing the operation on the horizontal plane of the larynx, a pair of forceps were newly designed. These consisted of a right-angular-open and a left-angular-open forceps.

我々が従来使用してきた microsurgery の鉗子は、「上向き」、「直」の二種類で、手術はこの二本を主とし、その他にメス、ハサミ、絞断器などを使用していた。この「上向き」、「直」の二種類は主として声帯遊離縁の手術操作には有効であるが、我々の症例の中にパピローマ、ポリープ様声帯などの疾患で声帯上面の操作を要するものを扱う様になつてから、手術をする上に何か役不足のものを感ずる様になつた。この二種類のものは、経喉頭鏡的に上下方向、即ち喉頭の水平面の操作、例えば声帯上面の病変の手術には充分な役割りを果たす事が出来ず、別にもう一本の鉗子を用いて様々な方向より声帯などを圧迫してやり、水平面を側面の位置に交換して手術する必要があつた。この鉗子は、この様な水平面の手術の際に使いやすいという事を意図して考案され、左右対称にVの如く開くものを考えたのであるがその製作過程において、その様な細工は困難であるとの製作者の技術上の問題に会い、「右方へ開くもの」「左方へ開くもの」を一对として製作された（写真1、2）。

しかるに、これを使用している内に、我々は先端の開かない「直」の部分（図3-A）が大

* 慶応義塾大学医学部耳鼻咽喉科学教室

〔写真 1〕

〔写真 2〕

きな利用価値をもつ事に気付いたのである。今右声帯にポリープがあつたとしてこれを鉗除しようとする、「左方へ開く鉗子」を使用し、

〔図 3〕

左方へ開くもの：先端Aは鉗子の長軸の方向で動かず、Bが約45°開く様になっている。

ポリープの基部A'に鉗子尖Aを当て、鉗子を声帯下方へ向って押しやると、ポリープはこの基部を軸にして外方へ回転し、その頂上を口腔側へ向けてくる（図4、写真5）。

〔図 4〕

〔写真 5〕

この時鉗子を閉じてやると、ポリープはその基部をはさまれ（写真6）きれいに鉗除されることがわかった。

この声帯を反転させてやるという操作は、microsurgeryではよく行う手技であり、この鉗子を用いると、一本で反転、鉗除の両方を同時に行なう事が出来るのである。以来我々はこの

〔写真 6〕

鉗子を非常に多く用いる様になり、パピローマ、ポリープ様声帯は元より、ポリープ、声帯結節などの手術に広く用いる様になった。又、我々是有茎性ポリープで声帯中央部にあるものは、外来で局所麻酔下に手術する場合がしばしばあるが、この様に時間的に迅速な手術を必要とする時などには、この鉗子は非常に便利である。本鉗子の大きな利点として、鉗子尖にてつまんだ所のみ限局性に鉗除出来るという事がある。「上向き」、「直」などを使っていると、鉗子尖にてつまみ、鉗除しようとしたとき、その周辺の正常上皮が少し余分にとれる危険がある。これは手技の未熟云々の問題ではなく、鉗子尖そのものに起因するものであると思われる。この鉗子は二年以上使用しているが未だ命名してなく、我々は「横開き鉗子（右横開き、左横開き）」と俗称している。諸先生方におかれても、もし折があればこれを使用され、御批判を仰ぎたいと考える次第である。

参考文献

- 1) Kleinsasser, O.: Weitere technische Entwicklung und erste Ergebnisse der "endolaryngealen Mikrocirurgie." Z. Laryng. Rhinol. 44; 711, 1965.
- 2) 齊藤成司他：喉頭内視鏡下の Microsurgery. 気食17; 253-266, 1966.
- 3) 鈴木安恒, 齊藤成司：喉頭の Microsurgery. 慶応医学44; 813-821, 1967.
- 4) 桜井栄他：喉頭ポリープに於けるマイクロサージャリーの経験. 日耳鼻73; 877-884, 1970.
- 5) 宇津見瑞雄：小児声帯結節の手術的療法に関する臨床的研究. 気食21; 166-182, 1971.
- 6) Ono, J., Saito, S.: Endoscopic microsurgery of the larynx. Ann. otolaryng. 80; 479-487, 1971.